

パテック フィリップ ジュネーブ

2020年11月

パテック フィリップは、グランドソヌリを最も純粹に体現した最初の腕時計を発表し、時の音楽における比類のない巨匠としての技術力を今再び、立証する

ジュネーブのマニファクチュール パテック フィリップは、多くの愛好家、コレクターの期待に応え、常に追い求められる高度なチャイム機構である、グランドソヌリを搭載した腕時計を現行コレクションに加える。グランドソヌリは、正時と15分、30分、45分に、時とクォーター（15分）の数を自動的に音で知らせる機能である。このグランド・コンプリケーション機能は、腕時計ではきわめて希である。新作は、これに加えプティットソヌリ（15分、30分、45分には時は鳴らない）、ミニット・リピーター（オンデマンドで現在の時刻を分まで知らせる）、および特許取得のジャンピング・セコンドも搭載している。新しいグランドソヌリ 630IPモデルは、703個の部品から構成される新しいムーブメントをプラチナ・ケースに搭載し、本黒七宝の文字盤を備えている。この新しいグランド・コンプリケーションは、パテック フィリップのリピーター・タイムピースのユニークなコレクションをさらに充実させ、その栄光にさらなる輝きを与えるに違いない。

時刻を音で知らせる機構は、機械式時計の原点から直接導き出されたものである。14世紀には、ヨーロッパの諸都市を飾る時計塔には文字盤も指針もなかった。その代わりチャイム機構により自動的に正時を知らせたのである。15世紀、最初のぜんまい駆動による携帯時計が現れ、それには自動チャイム機構も搭載されていた。これは、16世紀の最初の懐中時計にも当てはまる。17世紀後半になると、オンデマンドで時刻を知らせる時計が出現し、最初はクォーター・リピーター、次の世紀の初めにはミニット・リピーターが続いた。18世紀のジュネーブでは、時計職人ギルドの規則により、マスター・ウォッチメーカーになりたいすべての職人は、クォーター・リピーターを製作できる能力を立証する必要があった。これは、チャイム機構をマスターすることが、高度な時計製作技術を有する証拠と見なされたことを示している。

パテック フィリップの中核技術のひとつ、チャイム機構

パテック フィリップは、ジュネーブ時計製作の伝統に完璧に準拠し、創業当初からチャイム・ウォッチの製作を開始した。創業から4か月後の1839年9月、マニファクチュールは、この種の最初のタイムピースを販売台帳に記載した。それはリピーターを搭載した懐中時計であった。1850年には、グランドソヌリを搭載した懐中時計が販売台帳に記載された。ロンドンで開催された1851年の最初の万国博覧会のカタログには、パテック フィリップの特産品として《リピーター》と《自動ストライク機構を搭載した時計》が記載されている。これに続いて1860年、パテック フィリップ最初のミニット・リピーター搭載懐中時計が製作され、さらに19世紀を通じてクォーター・リピーター、5分リピーター、ミニット・リピーターを搭載した時計の製作が記録されている。

20世紀初頭、パテック フィリップは、チャイム・ウォッチ、とりわけ最も精密で、熱望の対象となったグランドソヌリにおいて、時計製作芸術のフロントランナーとしての地位を確立した。著名な《レグラ公》懐中時計は、1910年にメキシコの貴族レグラ公に販売された。今日、これはパテック フィリップ・ミュージアムで鑑賞



《報道資料》 ページ 2

することができる。グランドソヌリ、プティットソヌリに加え、ウェストミンスターのメロディーを奏するミニット・リピーターが搭載されており、5ゴングによりビッグ・ベンのメロディーをほぼ実物通りに再現する。1910年から1927年の間にアメリカの自動車王ジェームズ・ウォード・パッカードのために製作された13点の複雑時計には、ミニット・リピーターと天文表示を搭載した最初のパテック フィリップ懐中時計（1927年に納入）、およびグランドソヌリを搭載した数点の時計が含まれる。そのうちのひとつ（1920年）は、4ゴングによりウェストミンスターのメロディーを奏するものであった。1933年に裕福なニューヨークの銀行家で収集家のヘンリー・グレース・ジュニアに納入された著名な懐中時計《グレース・ウォッチ》は、1989年まで世界で最も複雑な携帯時計の地位を保持した。その24の複雑機能には、5ゴングによるチャイム機構とアラームが含まれる。これと並行してマニュファクチュールは、腕時計に搭載する目的でリピーター機構の小型化を追求し、1916年、リピーター機構を搭載した最初の腕時計（プラチナ・ケースとブレスレットを備えた婦人用5分リピーター）を発表した。

ミニット・リピーターの復興

1989年、パテック フィリップは創業150周年を記念し、その後四半世紀以上にわたって世界で最も複雑な機械式携帯時計の地位を保持することになる、キャリバー 89を発表した。この時計製作におけるマスターピースが搭載する33の複雑機能には、4ゴングによるグランドソヌリ、プティットソヌリとミニット・リピーターが含まれている。機械式タイムピースの復興を告げたこの年は、パテック フィリップによるリピーター腕時計へのトリビュートの年でもあった。チャイム機構を備えた2つの記念腕時計（3979と3974モデル）は、完全自社開発・製造によるパテック フィリップ最初のミニット・リピーター・ムーブメント、キャリバー R 27を搭載していた。当時のパテック フィリップ社長フィリップ・スターンは、雑音を出さず速度調整用アングルを廃止し、これに代えて19世紀末に発明された遠心ガバナーを採用してチャイム機構を最適化することを決定した。パテック フィリップの遠心ガバナーはこうして1989年、キャリバー 89、およびキャリバー R 27を備えた2つの記念タイムピースによってデビューした。

動きは加速した。数年の間に、ミニット・リピーターはパテック フィリップの現行コレクションの中で優先的な地位を享受するようになった。今日パテック フィリップは、リピーターのためのモデル、他の複雑機能（トゥールビヨン、永久カレンダー、クロノグラフ、ワールドタイムなど）と組み合わせられたモデルを合わせて12点ほどのモデルを製作しており、これは世界で最も広範なレギュラー生産されるミニット・リピーター腕時計のコレクションとなっている。

パテック フィリップにおけるチャイム・ウォッチ復興を告げた1989年以来、さらに2点の例外的なタイムピースにおいて、音響分野での重要なチャレンジが行われた。ダブルフェース懐中時計スターキャリバー 2000（21の複雑機能）は、新しいミレニアムの到来を告げるために創作された。このサイズの時計として初めて、ウェストミンスター（ロンドンの国会議事堂時計塔）のオリジナル・メロディーを完全かつ正確に再生する、5ゴングを備えたチャイム機構を搭載していた。そのミニット・リピーターとグランドソヌリは、まさに音響による祝宴であった。同様に、2001年に発表されたスカイムーン・トゥールビヨンは、パテック フィリップによる最初のダブルフェース腕時計であった。搭載された12の複雑機能には、回転する星座表と、カセドラル・ゴングを備えたミニット・リピーターが含まれる。



チャイム機構におけるグランドマスター

2014年、創業175周年と時を同じくして、パテック フィリップは音響コンプリケーションの領域でさらに飛躍的な進歩を遂げた。それはダブルフェース腕時計グランドマスター・チャイム 5175モデルの発表であった。7点のみが製作され、20の複雑機能を搭載していた。グランドソヌリ、プティットソヌリ、ミニット・リピーター、4桁の年表示、瞬時日送り式永久カレンダーなどに加え、あらかじめ設定された時刻に音を鳴らすチャイムによるアラーム、現在の日付を音で知らせるデイトリピーターという、世界初の特許取得の2つの機能を含んでいる。このパテック フィリップ最初のグランドソヌリ搭載腕時計は、同時にマニファクチュールにおける最も複雑な腕時計でもあり、2016年には、6300モデルとして現行コレクションの一部となった。創業175周年の2014年には、パテック フィリップのチャイム機構における技術力を立証する、他の限定製作の記念タイムピースも発表された。チャイミング・ジャンプアワー 5275モデルは、時、分、秒の3つのジャンピング表示機構と正時を告げるチャイム機構を搭載していた。

新しいグランドソヌリ 6301P モデル

パテック フィリップは、さらにこの動きを進め、現行コレクションを豊かにする、小型化と完璧な音響の傑作を発表する。グランドソヌリ 6301Pモデルである。このグランド・コンプリケーションは、グランドソヌリを最も純粋に体現したマニファクチュール最初の腕時計であり、プティットソヌリとミニット・リピーターも搭載している。これこそは愛好家、コレクターが長い間待ち望んでいた出来事といえよう。

ニューモデルに所期のグランドソヌリを実装するため、パテック フィリップはグランドマスター・チャイムのキャリバー 300のスピノフとして新たにムーブメントを開発した。新しいキャリバー GS 36-750 PS IRMは、703個の部品数を考えると、このように複雑な機構としてはきわめてコンパクトである（直径37 mm、厚さ7.5 mm）。グランドソヌリの設計者にとって従来からの最大の困難のひとつは、エネルギーのフローとパワーリザーブを最適化することである。スライドピースまたはプッシュボタンの操作によってオンデマンドで作動させるミニット・リピーターと異なり、グランドソヌリには、チャイムを均一な音響品質で必要回数、自動的に鳴らすのに十分なパワーリザーブが必要である。

この課題に対処するために、パテック フィリップは、キャリバー GS 36-750 PS IRMに、ひとつはムーブメント用、もうひとつはチャイム機構用の2組のツインぜんまいを搭載した。この構成によってムーブメントは72時間、チャイム機構は24時間のパワーリザーブが実現できた。3日間のムーブメント・パワーリザーブは、パテック フィリップの顧客中心の製品哲学に準拠し、毎日着用できる現代の時計に期待される長さである。一方、24時間のチャイム機構パワーリザーブにより、時計は1日中、正時およびクォーター（15分）を打ち続けることができ、均一なトルク特性のおかげで最適な音の強さが保証される。押し込まれた位置でリュウズを時計回りに回すとムーブメント用、反時計回りに回すとチャイム機構用のツインぜんまいが巻き上げられる。4個のぜんまいは、過度の張力から保護するため滑りバネを備えている。

3 ゴングを使ったチャイム機構

チャイム機構に関しては、パテック フィリップは古典的な3ゴング（低、中、高音）を採用した。この技術オ



《報道資料》 ページ 4

プシオンは、2ゴングを備えたシステムよりも多くのエネルギーを必要とする。また、各々のゴングを調整する際の作業は、3つのゴングすべてが愛好家に切望される伝説的な《パテック フィリップ・サウンド》を達成しなければならないため、より複雑となる。ムーブメントに取り付けられた3つのゴングは、ごく狭いスペースにもかかわらず、互いに接触したり、ケースやムーブメントに接触したりしてはならない。3つのハンマーは同一のサイズと重量を持ち、3音階の均一な強さを保証する。ケースの素材としてプラチナを採用したことも課題を提供した。この素材は完璧な音響を実現することが難しいため、マニファクチュールで世代から世代へと受け継がれてきたパテック フィリップの高度なノウハウが不可欠であった。

時は低音の数で知らせ、クォーター（15分、30分、45分）は高低中音からなるメロディの数で知らせる。15分、30分、45分には、先ず今が何時かを低音の数で知らせ、続いて最初のクォーター（15分）には1回、2番目のクォーター（30分）には2回、3番目のクォーター（45分）には3回、この高低中音からなるメロディが鳴る。チャイム機構のツインゼンまいに蓄えられたエネルギーのおかげで、24時間で合計1,056回、ゴングを打つことができる。またプティットソヌリ・モードを選択することもできる。これは正時には今は何時かを低音の数で知らせるが、クォーター（15分、30分、45分）には、今が何時かを知らせる低音は省略される。サイレント・モードでは、自動チャイム機構が完全にOFFとなる。

チャイム・モード（サイレント、グランドソヌリ、プティットソヌリ）の選択は、6時位置のケース側面のスライドピースにより行う。プティットソヌリ・モードは左側、グランドソヌリ・モードは中央、サイレント・モードは右側である。この特別な機能は、パテック フィリップ・グランドマスター・チャイムのためにすでに開発され、単一のスライドピースでチャイム・モードの選択とON/OFFを行う機構として特許を取得している。従来は、これらを実行するために2つのスライドピースが必要であった。同じくグランドマスター・チャイム用に開発されたもうひとつの特許は、サイレント・モード時にグランドソヌリ機構を完全に隔離し、エネルギーの消費を防ぐものである。ミニット・リピーターは、3時位置のリユズに統合されたプッシュボタンを押して作動させる。ミニット・リピーターは、グランドソヌリ、プティットソヌリの場合同様、時を低音の数で知らせ、クォーター（15分、30分、45分）を高低中音からなるメロディの数で知らせるが、これに加え、端数の分の数を高音で知らせる。スライドピースがサイレント・モードになっている場合でも、ミニット・リピーターは作動させることができる。

特許取得のジャンピング・セコンド

パテック フィリップ・グランドマスター・チャイムに搭載されたキャリバー 300を6301Pモデルのために作り直すに当たって、マニファクチュール パテック フィリップ技術陣は、従来のグランドソヌリには搭載されたことのないジャンピング・スモールセコンドを加えた。175周年記念モデルのひとつ、チャイミング・ジャンプアワー 5275モデルの4件の特許からインスピレーションを得て、新しい6301Pモデルに革新的なジャンピング・セコンド機構を搭載した。このシステムは、従来のようなジャンパー・スプリングに依存せず、代わりに歯車とリリースレバーを使用し、毎秒輪列を瞬時に解放し、これによりエネルギー消費の調整と制御を容易にしている。その結果、新しい6301Pモデルは、6時位置のスモールセコンドが特徴的な新しい顔を見せる。秒針は、シュマン・ド・フェール（ルール）型スケールに沿って秒毎にジャンプし、昔の時計製作工房で時刻を同期するために使用されていた精密時計レギュレーターを彷彿させる。新しい6301Pモデルは、パテック フィリップ創業175周年を記念して創作されたタイムピースの設計と製作から得られた、その他の広範な経験と最新の研究成果からも恩恵を受けている。



きわめて洗練されたムーブメント・アーキテクチャー

新しいキャリバー GS 36-750 PS IRM（サファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞することができる）は、パテック フィリップ・シールのすべての厳格な認定規準に準拠している。これは、技術的なパラメーター（計時精度、信頼性）と、各々の構成部品の仕上げ、および魅力的なアーキテクチャーを含む認定規準である。パテック フィリップでは、ムーブメントは、いくら複雑なものでも、その美しさとエレガンスを決して犠牲にはならず、ケースや文字盤と同様に、ティエリー・スターン社長の厳しい評価に耐えるものでなければならないのである。ムーブメントの受け（ブリッジ）、とりわけグランドソヌリの重要な要素である香箱受けやテンプ受けのデザインには格別な配慮が注がれた。これらは、信頼性と快適な視覚的プロポーションを保証する、パテック フィリップならではの希少な独自性である。愛好家は、面取りやポリッシュ仕上げがきわめて難しい、多くの入隅（いりすみ）と呼ばれる入り込んだ角を含む、他の多くの美的ディテールを発見することができるだろう。チャイムの速度を一定に保つ遠心ガバナーは、滑らかに磨き上げられた仕上げで装飾されており、鑑賞できるようになっている。この見事なムーブメントを体現する、Gyromax®テンプ、Silinvar®製Spiromax®髭ぜんまい、ムーブメントの周囲を取り巻く3ゴング、および各々のハンマーも同様である。ムーブメントにきわめて接近して配置された反射防止処理済みサファイヤクリスタル・バックを通して、精密機械工学の世界を心ゆくまで鑑賞することができる。サファイヤクリスタル・バックは、時計に同梱されているソリッド・プラチナ・ケースバックと交換することもできる。

現代的でエレガントな色彩

新しいグランドソヌリ 6301Pモデルは、グランド・コンプリケーションも快適に日常着用できなければならないという、パテック フィリップの重要な哲学に忠実であり、際立った洗練を見せている。2015年に発表されたスプリット秒針クロノグラフ 5370モデルからインスピレーションを得たプラチナ・ケースは、曲線と丸みを帯びた輪郭で繊細さと均衡を表現し、凹面ベゼルが、わずかにふくらみを帯びたサファイヤクリスタル・ガラスと、段差のついたサテン仕上げのケース側面を完璧に調和させている。パテック フィリップのすべてのプラチナ・モデルと同様、ケース側面に小さなダイヤモンドを配しているが、通常の6時位置はチャイム・モード選択のスライドピースによって占められているため、このモデルでは12時位置にこれがセッティングされている。

パテック フィリップは、クラフトマンシップと希少なハンドクラフトにおける技術と経験を踏まえ、光沢仕上げの本黒七宝文字盤、植字ブreg数字、ホワイトゴールドの夜光付リーフ型時・分針などにこれを活用している。わずかに傾いたブreg数字は、クラシックでありながら現代的な顔にダイナミックなタッチを加える。時、分、および6時位置のスモールセコンド表示は、3時と9時位置のムーブメントおよびチャイム機構の2つのパワーリザーブ表示と完璧に均衡しており、半円形のスケールには、フランス語でMOUVEMENTとSONNERIEの文字が記載されている。タイムピースには、ラージ・スクエアのブリリアント・ブラック・ハンドステッチ・アリゲーター・バンドおよび折り畳み式バックルが装着されている。

時の音楽に加えられた新たな章

1989年のミニット・リピーター腕時計のリニューアルにより、パテック フィリップは、リピーター・タイム



《報道資料》 ページ 6

ピースを現代に復興させるための扉を大きく開いた。創業175周年の2014年、グランドマスター・チャイムが発表され、今回、現行コレクションのひとつとして新しい6301Pモデルが発表された（ただし、その複雑さにより、製作は年間数点に限られる）。こうしてマニユファクチュール パテック フィリップは、グランドソヌリ分野の展開において新しい章を書き加え、道を切り開いた。今回の新作は、時の音楽に情熱を注ぐすべての愛好家、コレクターにさらに大きな視覚的、聴覚的喜びを与えてくれることであろう。

新しいグランドソヌリ 6301P モデルの6つの複雑機能

- グランドソヌリ
- プティットソヌリ
- ミニット・リピーター
- ムーブメント・パワーリザーブ表示
- チャイム機構パワーリザーブ表示
- ジャンピング・セコンド

技術特許

- サイレント・モードにおけるグランドソヌリの隔離（技術特許 CH 704 950 B1）
この機構により、サイレント・モード時にグランドソヌリ機構を完全に隔離し、エネルギーの消費を防ぐ。
- チャイム・モードの選択（技術特許 CH 706 080 B1）
この機構により、単一のレバーと単一のスライドピースでチャイム・モード（プティットソヌリ、グランドソヌリ、サイレント）を選択できる。従来はこれらを実行するために2つのスライドピースが必要であった。
- 歯車によるジャンピング・セコンド（技術特許 CH 707 181 A2）
この革新的なジャンピング・セコンド機構は、従来のようなジャンパー・スプリングに依存せず、代わりに歯車とリリースレバーを使用し、毎秒輪列を瞬時に解放し、コイル状の戻しバネを唯一の動力源として利用する。これによりエネルギー消費の調整と制御を容易にしている。

グランドソヌリ 6301Pモデルについて、もっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧ください。

会社ニュース <https://www.patek.com/ja/会社/ニュース/grande-sonnerie-ref-6301>



パテック フィリップのチャイム・ウォッチの歴史における重要な日付

1839年9月4日

マニュファクチュール最初のチャイム付タイムピース (No. 81)。アントワーヌ・ノルベール・ド・パテックの最初の共同経営者、フランソワ・チャペックによって最終組立てと最終調整が行われたリピーター搭載懐中時計。

1850年

グランドソヌリを搭載した最初の懐中時計を販売台帳に記載。

1860年

ミニット・リピーターを搭載した最初の懐中時計を販売台帳に記載。

1910年

《レグラ公》懐中時計。5ゴングによるグランドソヌリ、プティットソヌリ、ミニット・リピーター、ウェストミンスター・チャイムを搭載。

1916年

チャイム機構を備えたパテック フィリップの最初の腕時計。婦人用5分リピーター・モデル。

1920年

自動車王ジェームズ・ウォード・パッカードのために製作された、4ゴングによるグランドソヌリ、ウェストミンスター・チャイム、永久カレンダー搭載の懐中時計

1924年

クルーズ・コントロールの発明者である盲目の自動車技師ラルフ・ティーターに販売された、ミニット・リピーターを搭載した最初のパテック フィリップ腕時計。

1927年

自動車王ジェームズ・ウォード・パッカードのために製作された、ミニット・リピーターと星座表を搭載した最初のパテック フィリップ懐中時計。

1933年

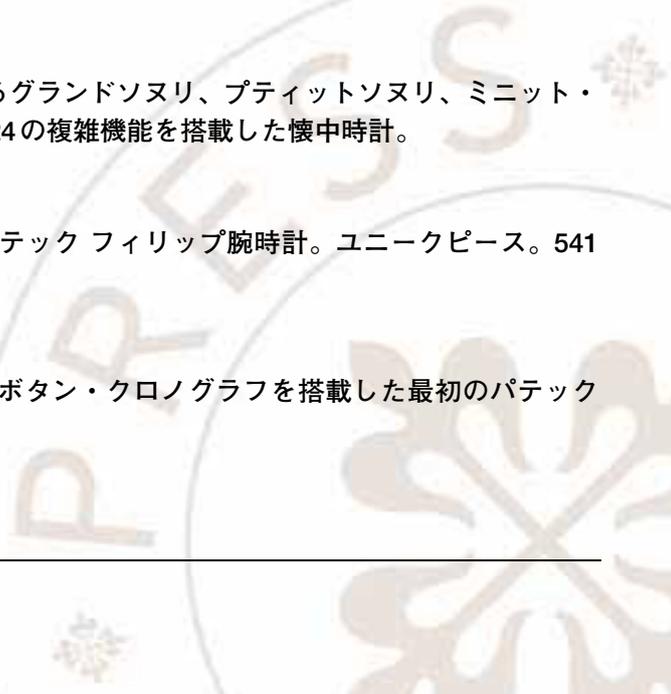
超複雑タイムピース《グレーブス・ウォッチ》。5ゴングによるグランドソヌリ、プティットソヌリ、ミニット・リピーター、ウェストミンスター・チャイム、アラームなど24の複雑機能を搭載した懐中時計。

1939年

ミニット・リピーターと永久カレンダーを搭載した最初のパテック フィリップ腕時計。ユニークピース。541モデル。

1982年

ミニット・リピーター、永久カレンダー、シングルプッシュボタン・クロノグラフを搭載した最初のパテック フィリップ腕時計。ユニークピース。3615モデル。





1983年

グランドソヌリ、ミニット・リピーター、スプリット秒針クロノグラフ、永久カレンダー（キャリバー 20^{'''} GC）を搭載した懐中時計。920/1 モデル。

1989年

パテック フィリップ創業150周年記念とリピーター・タイムピースの復興

- キャリバー 89。4ゴングによるグランドソヌリ、プティットソヌリ、ミニット・リピーター、5番目のゴングによるアラームを含む33の複雑機能を搭載した世界で最も複雑な携帯時計。
- ミニット・リピーターを搭載した完全自社開発・製造キャリバー R 27、および3979モデル（キャリバー R 27 PSを搭載）、永久カレンダー搭載3974モデル（キャリバー R 27 Qを搭載）の発表。

2000年

スターキャリバー 2000。天文表示、グランドソヌリ、ミニット・リピーター、5ゴングによるウェストミンスター・チャイムを含む21の複雑機能を搭載した懐中時計。

2001年

スカイムーン・トゥールビヨン5002モデル。天文表示、カセドラル・ゴングによるミニット・リピーターを含む12の複雑機能を搭載したパテック フィリップ最初のダブルフェース腕時計。

2011年

ミニット・リピーターを搭載した、現代のコレクションとしては最初の婦人用腕時計7000モデル。

2014年

パテック フィリップ創業175周年

- グランドマスター・チャイム5175モデルの発表。リバーシブル・ケースと、グランドソヌリ、プティットソヌリ、ミニット・リピーターなどに加え、あらかじめ設定された時刻に音を鳴らすチャイムによるアラーム、現在の日付を音で知らせるデイトリピーターという、世界初の特許取得の2つの機能を含む20の複雑機能を備えたパテック フィリップ初のダブルフェース時計。
- 記念タイムピース、チャイミング・ジャンプアワー 5275モデル。時、分、秒の3つのジャンピング表示機構と正時を告げるチャイム機構を搭載。

2016年

グランドマスター・チャイム、6300モデルとして現行コレクションの一部となる。

2018年

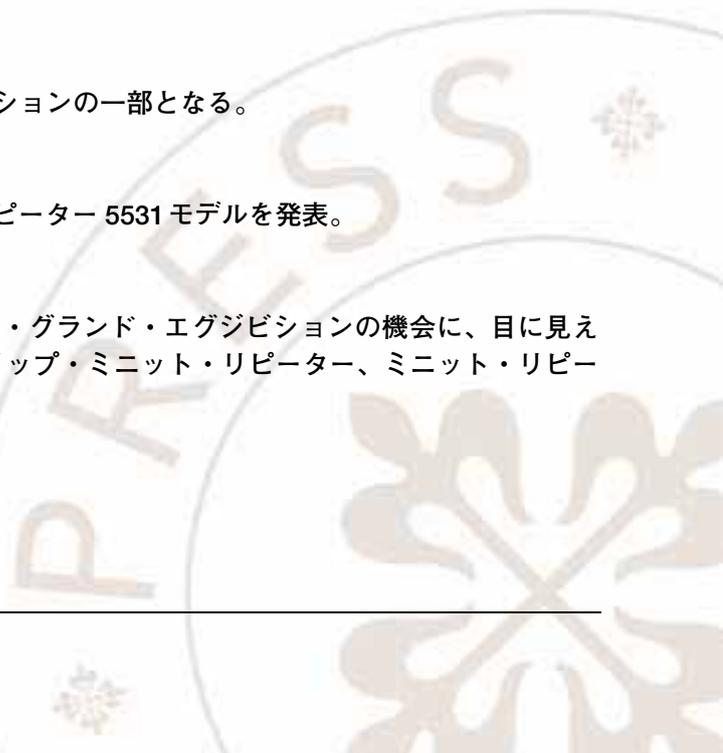
最初のパテック フィリップ・ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルを発表。

2019年

シンガポールにおけるパテック フィリップ・ウォッチアート・グランド・エグジビションの機会に、目に見える文字盤側にチャイム機構を搭載した最初のパテック フィリップ・ミニット・リピーター、ミニット・リピーター・トゥールビヨン5303Rモデルを発表。

2020年

グランドソヌリ 6301Pモデルを発表。





技術仕様

パテック フィリップ・グランドソヌリ 6301P モデル

ムーブメント：	キャリバー GS 36-750 PS IRM。 手巻ムーブメント。3ゴングによるグランドソヌリ、プティットソヌリ、ミニット・リピーター。ジャンピング・セコンド。チャイム・モード表示（プティットソヌリ、グランドソヌリ、サイレント）。ムーブメントおよびチャイム機構各々のパワーリザーブ表示。
総 径：	37 mm
厚 さ：	7.5 mm
部品総数：	703個
石 数：	95石
連続駆動可能時間：	ムーブメント：72時間、チャイム機構：24時間
振動数：	25,200 振動（片道）/時（3.5 Hz）
テンプ：	Gyromax®
髭ぜんまい：	Spiromax®（Silinvar®製）
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置： ムーブメント巻き上げ（時計回り）、チャイム機構巻き上げ（反時計回り） ・引き出した位置： 時刻合わせ
表 示：	指 針 ・時・分針（センター） ・ジャンピング・セコンド（6時位置） ・ムーブメント・パワーリザーブ（9時位置） ・チャイム機構パワーリザーブ（3時位置）
操 作：	・3時位置のリュウズに統合されたプッシュボタンを押してミニット・リピーターを作動 ・6時位置のスライドピースによりチャイム・モード（プティットソヌリ、グランドソヌリ、サイレント）を選択
刻 印：	パテック フィリップ・シール





外 装

ケース： プラチナ950仕様
12時位置のラグ間にピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンド
非防水（湿気・埃にのみ対処）
サファイヤクリスタル・バックと通常のケースバックが共に付属

寸 法： 直径：44.8 mm
厚さ：12 mm

文字盤：

- ・18金ゴールド、本黒七宝、光沢仕上げ
- ・18金ホワイトゴールドの植字ブレゲ数字
- ・18金ホワイトゴールドの夜光付リーフ型時・分針
- ・ホワイトゴールドの《ダガー（短剣）》型秒針（6時位置）
- ・夜光付10秒マーカー入り転写シュマン・ド・フェール（ルール）型秒スケール
- ・夜光付5分マーカー入りシュマン・ド・フェール（ルール）型分スケール
- ・ホワイトゴールドの《シュヴー》型パワーリザーブ表示針（ムーブメント、チャイム機構）

バンド：

- ・ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーはブリリアント・ブラック、プラチナ折り畳み式バックル付

